

実践ノート

「持ち寄り型」ビジュアルテキストの誕生

渡邊令子¹⁾・山下雅佳実²⁾・鹿内信善³⁾

WATANABE Noriko YAMASHITA Akemi SHIKANAI Nobuyoshi

キーワード：看図アプローチ・「持ち寄り型」ビジュアルテキスト・日常生活援助技術・基礎看護学実習

Ⅰ. 看護師として「想いを馳せる」ために
「ものこと原理」を使って「気づく」

患者さんは個々に様々な生活背景や思いを持って生活しています。そのような生活背景や思いを読み取り、感じることができる看護師を育てることが私たち教員の願いです。

「みる」ことを重視し、読み解く「看図」と同じように、看護も「みる」ことを重視し、その時々目の前の事象を読み解き看護していきます。「看図アプローチ」と出会い、その手法を使って、想像（創造）的に考える力を育てることは、非常に有効だと思いました。そこで、「日常生活援助技術」の授業に看図アプローチを導入しようと考えました。



スライド 1

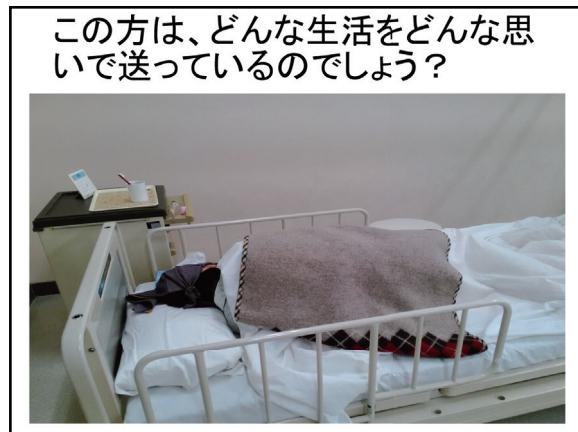
※スライドおよび写真は全て © 渡邊令子

学生たちにはまず、スライド1の写真（ビジュアルテキスト）を呈示します。看図アプローチでは「ものこと原理」が大切ですから、スライド1の写真では写っている「もの」を取り出してもらいます。この授業では「何が見えますか？ 7つ以上書いて下さい。」という指示によって、写っている「もの」を取り出してもらいました。いくつ取り出させるかは、写真に写っている情報量によって違ってきます。スライド1の場合は、「7つ以上書いて下さい」という指示でちょうどよかったようです。

学生がスライド1の写真から取り出した「もの」は、グループやクラス全体でシェアしていきます。学生たちは「ベッド」「ベッド柵」「患者さん」「掛け毛布」「歯ブラシ」等の「もの」を取り出してくれました。「写真をよく見て下さい」と教員が言わなくても、学生たちは「よく見る」活動を自然に始めてくれました。

ふりかえっての反省もあります。スライド1では「何が見えますか？」と質問していますが、ここは普通に「どんな『もの』が写っていますか？」にした方が「ものこと原理」の「もの」を強調できてよかったのではないか、と思っています。このようなことをふまえ、来年度以降のため渡邊と山下でスライドを再構成しました。再構成版を本稿末に付録として掲載しておきます。

1) 長崎県立看護学校専門課程
2) 中村学園大学短期大学部
3) 天使大学

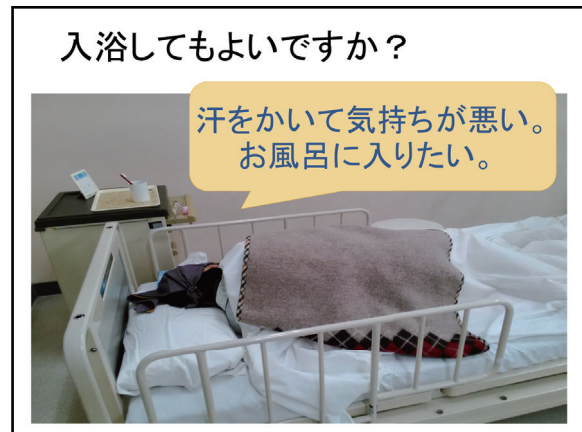


スライド 2

次に学生たちへ呈示するのがスライド 2 の発問です。学生たちはスライド 1 で考えたことをクラスでシェアすることで「ポータブルトイレ」や「転がったらくのみ」などにも気づきます。学生は、「臥床した患者・ポータブルトイレ・ベッド柵→動けないから寝てる状態？それとも安静の指示？」「転がっているらくのみ、殺風景なテーブルの様子→付き添いがいないのでは？」「うずくまり、毛布にくるまっているから身体がきつい(しんどい)のかな？」「毛布がかかっているから寒いのかな？」など、患者の「いろんな状況や思い」を読み取ってくれました。これは、看図アプローチという「外挿」にあたると思います。写真をもとに「発展的に考える」ということを学生たちはできていたと思います。

スライド 2 で学生たちが考えたこともグループやクラス全体でシェアしてもらいました。その後、学生たちには「大切なこと」として次のようなことを伝えるようにしています。

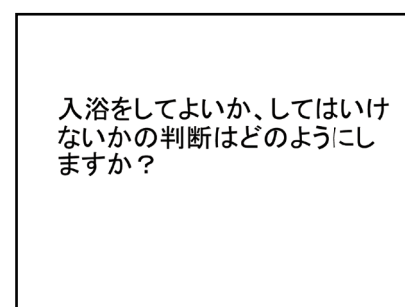
- この写真のような情景は、病院の日常にあふれていること。
- 目の前にいる患者さんにも、写真と同じように様々な生活背景や思いがあり生活していること。
- 今回体験したように「見ようとしないと見えてこない」こと。
- 見えないからこそ、見ようとすることが大切であること。



スライド 3

本校では、「日常生活援助技術」の授業で、まず「清潔の援助」について学んでいきます。援助を行う際の判断について学ばせるため、スライド 3 には「汗をかいて気持ちが悪い。お風呂に入りたい。」という「吹き出しセリフ」を入れてみました。このスライドを作るのに、もうひとつ私の工夫を入れています。この患者さんは頭にバンダナを巻いています。それに気づく人も気づかない人もいます。気づけなかった人は、気づいた人の意見を聞いて「はあー！」となります。こういうところが協同学習のよい点だと思いますし、看図アプローチは協同学習を引き出すにはとてもよい方法だと思います。

何故バンダナなのか、というと、「この患者さんは白血病で化学療法中」という設定です。バンダナに気づくと学生たちも「なんでバンダナなんだろう？」と考えます。そういう学生たちの疑問に合わせて「この患者さんは入浴していいか、してはいけないか」という発問をしていきます（スライド 4）。



スライド 4

この判断をする際には、入浴の禁忌事項や留意点に関する情報が必要になります。そこで、「ちょっと教科書で見よう」と伝え、教科書を開いてもらいます（スライド5）。

教科書で確認しましょう。

スライド5

「気づく」から「知識獲得」へ

看図アプローチでいろいろなことを考えてもらい、教科書学習に入っていきます。そうすることで、教科書を読むことに対する動機づけも高まるように感じます。

学生たちは、化学療法を受けている患者さんの入浴に関する判断をする際、どのように「アセスメント」すればよいのか、教科書を活用しながら学んでいくことになります。どんなデータに基づきアセスメントしていったらいいか、ということも学んでくれます（スライド6・7・8）

患者さんは、いろんな思いをもって生活しています。その為、学生たちには、まず患者さんへ思いを馳せてほしいと思います。そして、生活援助をするためのアセスメントの必要性やそのアセスメントには、判断基準や情報が必要であることを学習し、「気づく」だけではなく、さらに実践する知識と力を身につけてほしいと想い、授業をつくっています。

患者情報

春野花さん(40歳)は白血病のため、治療目的で入院しています。

花さんは初めての化学療法中です。

「汗をかいて気持ち悪い。お風呂に入りたい。」と言っています。

スライド6

入浴するかしないかを判断する為にどんな情報が必要だと思いますか？

スライド7

データ:

RBC200万/ μ L、Hb7g/dl、
血小板5万/ μ L、WBC2000/ μ L
T36.6°C p65/分 R20/分

スライド8

II. 表現できる「持ち寄り型ビジュアルテキスト」の発見

看図アプローチを学び、「きゅうちゃん」を使いたいと考え、基礎看護学実習のまとめに「きゅうちゃん」(図1)を活用しました。石田先生にいろんなきゅうちゃんを創ってもらっていますから、その中からたくさんきゅうちゃんを選びました。学生たちのいろんな気持ちを引き出せるように、いろんなきゅうちゃんを選んで使いました。

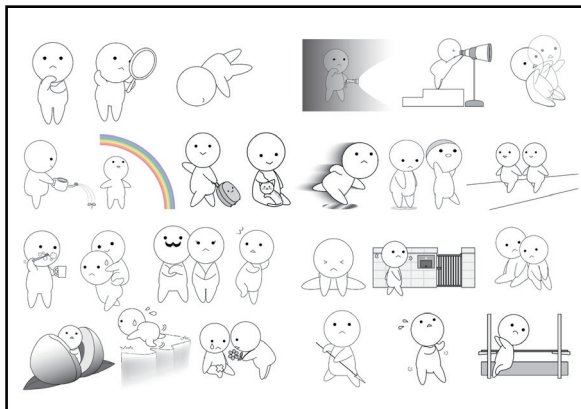


図1 きゅうちゃんシート

(編集委員会注；「きゅうちゃん」は現在 500 種類ほど作成されています。組み合わせ方により様々な活用が可能です。)

「きゅうちゃん」により、学生たちのさまざまな学びを引き出すことができました。「きゅうちゃんを通して表現することで伝えやすくもあったし、伝わりやすかった。」という多数の意見の一方、

少数ではありますが、「きゅうちゃんのイラストと自分の考えを結びつけて発表するのが難しかった」と、「きゅうちゃん」ではなかなか学びを表現しづらいと感じた学生がいたのも事実です。教員が「きゅうちゃん」を選んでいるので、実習で得た多くの学びを表現することが難しかったのかもしれない。また、そもそも図を見てイメージすることが苦手な学生もいるのではないかと思います。

この授業の目的は、学びを表現することにあります。そのため、すべての学生が学びを表現できるように授業改善したいと思い、飛躍していますが、「学生たちに自分の感性でビジュアルテキストを持ってきてもらえばいい」と思いつきました。ここから「持ち寄り型ビジュアルテキスト」という考えにたどり着きました(図2)。

(編集委員会注；渡邊先生のこのアイデアは山下雅佳実(2021)の研究にさっそく取り入れられています。看図アプローチに取り組んでいる人なら、「すぐに取り入れたい」と思ってしまうすばらしいアイデアです。)

学生たちはさまざまな写真を持ち寄り、自己を自由に表現していました。教員が思いつかないような発想で写真を読み解き、グループワークではいきいきとそれぞれが語っていました。学生たちは私が考えているよりも、もっと素晴らしい感性を持っているということに気づきました。



図2 持ち寄り型ビジュアルテキストの例

(編集委員会注；図2に掲載されている巨峰の写真以外は、学生自身が撮影したオリジナルなものです。)

巨峰写真の掲載元 URL；<http://www.oshimaya.jp/fs/oshimaya/kyoho>

Ⅲ. 「きゅうちゃん恐るべし」から「新しい発見」

看図アプローチを活用した授業を受講した卒業生の中には、自分の考えを表現することの困難さやきゅうちゃんの曖昧性の高さに困惑している学生もいました。しかし、卒業生が製作してくれた「卒業色紙」には、きゅうちゃんがたくさん散りばめられていました。

「きゅうちゃん」や、教員が準備したビジュアルテキストは、「分かりにくいから、しっかり考える」「曖昧だから、真剣に取り組む」という点においては印象に残りやすく、学生の学びに貢献するのかもしれませんが。このように考えた時、「きゅうちゃん恐るべし！」の文字が頭に浮かびました。

看図アプローチは、曖昧性や意外性を大切にしています。その曖昧性や意外性が学習意欲を高めて、深い学びへと導きます（鹿内 2015）。そのため、「きゅうちゃん」だけではなく、曖昧性・意外性のあるビジュアルテキスト・文章テキストを用いることでより深く考えることができるようになるのではないかと思います。授業内容や学習目標に沿って、ビジュアルテキストを選択しながら、より深く考え、印象に残り、学生の学びとなるよう今後も授業方法を模索していきたいと考えます。

引用・参考文献

鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方 看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版

鹿内信善・山下雅佳実 2017 「看図アプローチの授業への取り入れ方 看図アプローチの基礎とその面白さ」『看護人材育成』14 巻 1 号 pp.90-95

山下雅佳実 2020 「『看図アプローチ語りカフェ』プログラムに関する探索的研究：保育所における園内研修としての有用性」『保育文化研究』10 巻 pp.75-88

山下雅佳実 2021 「看護学と保育学の多職種連

携教育プログラム開発に向けてのブレ実践ー『ビジュアルテキスト持ち寄り型看図アプローチ語りカフェー』『全国看図アプローチ研究会研究誌』8 号 pp.41-49

安永悟 2013 「活動性を高める授業づくり」医学書院

注1 本研究の一部に科学研究費 19K10791 をあてた。

注2 本稿は、渡邊令子の実践をもとにしている。渡邊の実践内容や実践に関する感想等のデータは山下雅佳実がインタビューになって収集した。山下が収集したデータを鹿内信善が論文にまとめた。さらに、3 人での綿密なチェックを経て最終稿とした。このため、本稿の文責は、渡邊・山下・鹿内の 3 名が等しく負うものである。

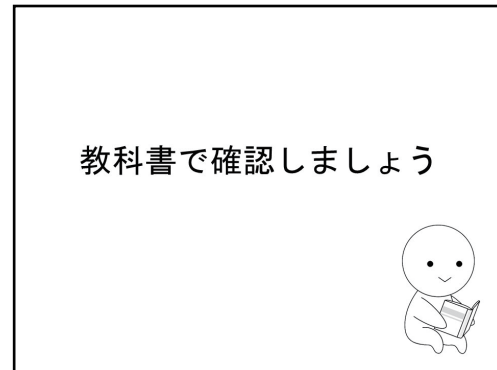
2021 年 12 月 28 日受付

2022 年 1 月 10 日受理

付録一再構成版スライド



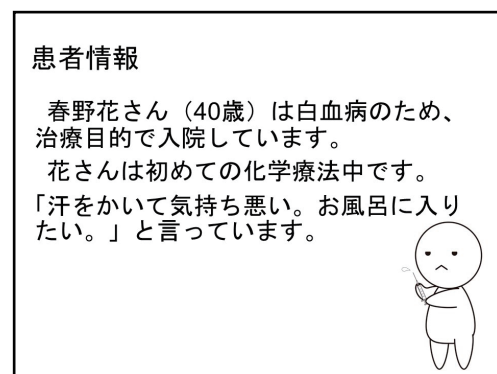
スライド 1



スライド 5



スライド 2



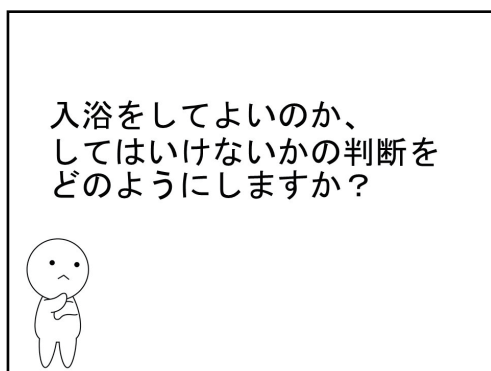
スライド 6



スライド 3



スライド 7



スライド 4



スライド 8